

序

インダス・プロジェクトは正式には『環境変化とインダス文明』という名称で、2007年4月から本研究をおこなってまいりました。地球研のプロジェクトはISからはじめ、FSと移り、評価委員会にかかった後、PRを経て、本研究がスタートします。現在は、評価委員会に通らないかぎり、地球研には赴任できませんが、わたしたちのころは最初に赴任した後、プロジェクトを立ち上げるというシステムでした。ですから、2003年10月に赴任してから、すでに8年以上の歳月が過ぎています。

そして、2012年3月にはこのプロジェクトも終了いたします。毎年、年度ごとの活動報告書を、プロジェクト発表会の前に刊行してきましたが、本年度は最終年度ですので、2010年度だけではなく、2011年度分の活動報告もこの報告書に織り込んでいます。また、発行時期もプロジェクト終了間際まで遅らせています。皆さんご存じのように、プロジェクト発足当初は、インダス・プロジェクトへの評価はあまり高くはありませんでした。しかし、昨年度の評価委員会ではたいへん高い評価を受けることができました。これも、プロジェクトメンバーのご支援ご協力のおかげです。改めて、この場を借りて感謝いたします。

この最終報告書に、わたしはプロジェクトが本研究に至までの苦勞を率直に記しています。最終報告書らしくないスタイルで、とまどう方もいらっしゃるかもしれません。しかし、わたしはこれまでも報告書のスタイルを事実だけの羅列に終わらない、無味乾燥なものとせず、プロジェクトリーダーとしての私的体験を交えた、意図的に逸脱したスタイルで書いてきました。ただし、そうしたスタイルに行きすぎがあって、私的感想だけになってしまって、事実とことになってしまっては報告書としての役目が果たせません。そこで今回は、あらかじめ地球研にいるメンバーやコアメンバーの方々には草稿をお送りして、ご意見をうかがってから、訂正すべきところは訂正いたしました。しかし、そこで表明している考え方はあくまでもわたし個人の意見です。プロジェクトの公式見解ではありません。そのことだけは最初にお断りしておきます。草稿を読んでコメントを下さった皆様に御礼申し上げます。また、本報告書を読んだのコメントや感想がありましたら、ぜひお寄せ下さい。

最終報告書はプロジェクト期間の終了を意味し、インダス文明研究はこれからが正念場です。インダス・プロジェクトでおこなった研究成果をどういう形で受け継いでいくのか。プロジェクトメンバーの皆様方と一緒に、今こそ真剣に考えるときです。このプロジェクトとまったく同じものや類似したものは、今後おこなうことは難しいと思います。この研究成果をどのように継承させ、どんな形のプロジェクトが可能なのか。プロジェクトリーダーが先頭に立って、現在模索中です。新たなるプロジェクトが立ち上がった暁には、また皆様のご支援ご協力を仰ぐ機会があるかと思えます。その日が来ることを願いつつ、最終報告書の序文といたします。

最後にもう一度、プロジェクトに関わったすべての方々に、重ねて心からの御礼と感謝を表
したいと思います。本当にありがとうございました。

プロジェクトリーダー

長田 俊樹